



平成24年度在宅医療連携拠点事業 成果報告

一般社団法人鶴岡地区医師会
在宅医療連携拠点事業室「ほたる」



タスク 1

多職種連携の課題に対する解決策の抽出

多職種が一堂に会する場の設定

訪問看護・訪問服薬指導に関する課題の抽出



多職種が一堂に会する場の設定

【ほたる多職種研修会・意見交換会】参加者合計：478名

	開催日	会の名称	参加者数
1	7月18日	第1回ほたる多職種研修会（脳卒中）	137名
2	8月22日	第2回ほたる多職種研修会（糖尿病）	105名
3	10月3日	第3回ほたる多職種研修会（リハビリ）	151名
4	2月15日	第4回ほたる多職種研修会（エンゼルケア）	45名
5	3月11日	「在宅医療連携拠点事業」に係る意見交換会	40名



【その他の主催・共催・後援した研修会】参加者合計：820名

	開催日	会の名称	参加者数	形態
1	4月24日	訪問歯科診療相談窓口設置に係る運用説明会	99名	主催
2	5月21日	第1回南庄内在宅医療を考える会	29名	共催
3	8月2日	第1回医療と介護の連携研修会	181名	共催
4	9月14日	とようら居宅介護支援センターへの出張勉強会	7名	主催
5	10月15日	第2回南庄内在宅医療を考える会	26名	共催
6	11月22日	第2回医療と介護の連携研修会	137名	共催
7	12月9日	在宅歯科医療と口腔ケアについての多職種連携研修会	123名	後援
8	12月14日	鶴岡協立病院 高齢者・認知症ケア推進委員会 発足記念講演会	140名	共催
9	2月14日	医科歯科連携を考える会	77名	共催

地域のニーズを把握！
今必要とされている
テーマの研修会を
開催します！



地域のニーズに応えた研修会を開催するとともに、既存の会に対する共催や後援による運営支援を行い、地域のイベントコーディネーター役を目指す！

訪問看護・訪問服薬指導に関する課題の抽出

【課題】訪問看護師のマンパワー不足

地域的要因として訪問看護師が慢性的に不足している。地域全体で考えた問題解決策を検討する。

◆ 1回目アンケート

訪問看護師の本来業務・役割の見直しを行い、訪問看護師の負担を軽減する対策を講じる。

◆ 2回目アンケート

1回目アンケート結果から課題となった項目の、業務内容を調査する。

◆ 課題と対策

- ①訪問時の薬剤管理作業（薬剤師との連携不足）
- ②看護記録等の事務作業

組織横断的な医薬連携をより推進するため、ほたる、訪問看護師、薬剤師会とのミーティングを3月18日に開催

【課題】訪問服薬指導を実施する薬局の不足と医師の理解不足

◆ 薬剤師会によるアンケート

年度	総数	対応可能	応相談	不可	無回答
H23年度	55	11 (20%)	22 (41.9%)	21 (38.1%)	0 (0%)
H24年度	56	10 (17%)	24 (42.8%)	16 (28.5%)	6 (10.7%)

◆ 課題と対策

- ①訪問服薬指導の実施状況に昨年度との大きな変化はない。
- ②本年度のアンケートには、ほたるから依頼し、在宅医療に関する項目を追加して調査を実施。
 - ・訪問可能時間や訪問範囲
 - ・時間外対応
 - ・退院カンファレンスへの参加体制の有無

訪問看護師の負担の軽減や、訪問服薬指導の利用を促進するための検討の場を企画し、具体的な業務連携・問題解決を実現する！

タスク2

在宅医療従事者の負担軽減の支援

ホームページによる情報発信

患者情報共有ツールの活用と展開

総合相談窓口

在宅医療地域資源マップ^o

地域内の在宅医療資源を**地域や施設の機能で検索**することができ、地図へのマッピングや、在宅医療に関する情報を閲覧できる。

地域のショートステイの空き情報が確認できます。
ほたるが責任を持って毎週情報を更新しますので、**情報の鮮度が保たれています**

主催するイベントだけでなく、地域で行われる**医療介護関連の学習会、研修会等**を集約したカレンダーです。

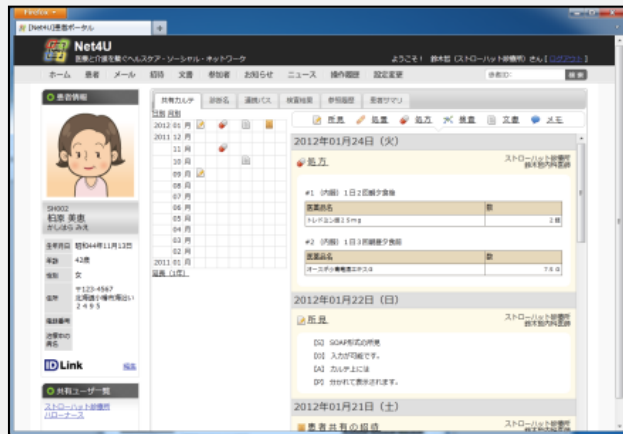
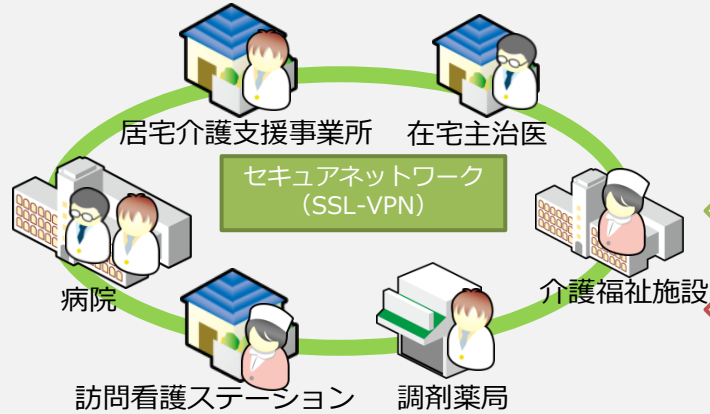
主催する多職種研修会や、共催イベント等についての開催情報、開催内容、写真、アンケート結果を、**網羅的にまとめた活動報告**です。

はたるの基本情報、事業の説明、相談窓口の案内、スタッフ紹介、報道・メディア紹介等の情報を発信しています。

在宅医療連携拠点事業室 ほたる 

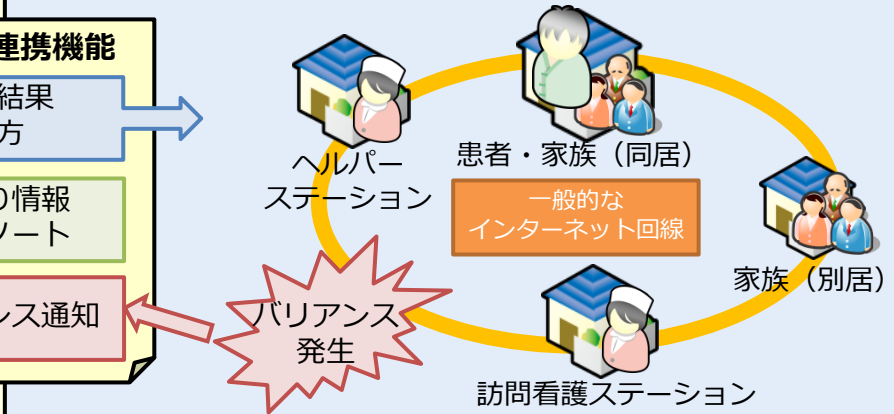
患者情報共有ツールの活用と展開

Net4U ～当地区で10年以上利用されてるITツール～ 医療・介護従事者のための患者情報共有ツール



地域で利用されている患者情報共有ツール。診療情報の共有・コミュニケーションとして利用され続けている。Note4Uの導入により在宅高齢者の見守り情報が確認でき、患者の状態に注意すべき変化があれば、メールで通知される。

Note4U ～本年度はたるが主体となりシステム構築～ 介護者参加型在宅高齢者見守りWEB連絡ノート



家族やヘルパーが登録する見守り情報により、Net4Uを利用する主治医やケアマネジャーが、日々の在宅での状態を把握できるようになる。WEB型連絡ノートとしても利用できるほか、Net4Uで登録された処方箋や検査結果の閲覧も可能となる。

患者情報共有ツールに機能拡張。家族やヘルパーが参加できる「在宅高齢者見守り機能」によって、在宅高齢者の急変、重症化の予防を実現！

総合相談窓口

相談件数

相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年度	7	2	6	6	7	9	7	3	9	9	4	5	74
(うち地域住民)	1		1		2		1			3	2	0	10
平成23年度					2	1	1	2	3	8	3	9	29

相談元施設

施設区分	件数
居宅介護支援事業所	32
医療機関	21
地域住民	10
地域包括支援センター	3
訪問看護ステーション	2
グループホーム	2
障がい者支援センター	1
小規模多機能施設	1

主な相談内容

内容	件数
地域資源の情報提供	19
相談支援	13
医療依存度の高い方の入所先	12
往診医について	12
入所施設について	8
訪問歯科について	8

相談件数は昨年度の約2倍以上になりましたが、地域住民からの相談はまだまだ少ないです。

相談内容データベースを作成。
相談業務の品質を高めるとともに、地域の課題抽出等にも役立てることが期待できる。



相談件数は地域からの信頼のリトマス試験紙。医療・介護従事者からの相談は増えているが、地域住民の認知度はまだまだ低い。周知の強化が必要！

タスク 3

効率的な医療提供のための多職種連携

口腔ケア提供体制の構築

地域包括支援センター・行政との連携

出張勉強会

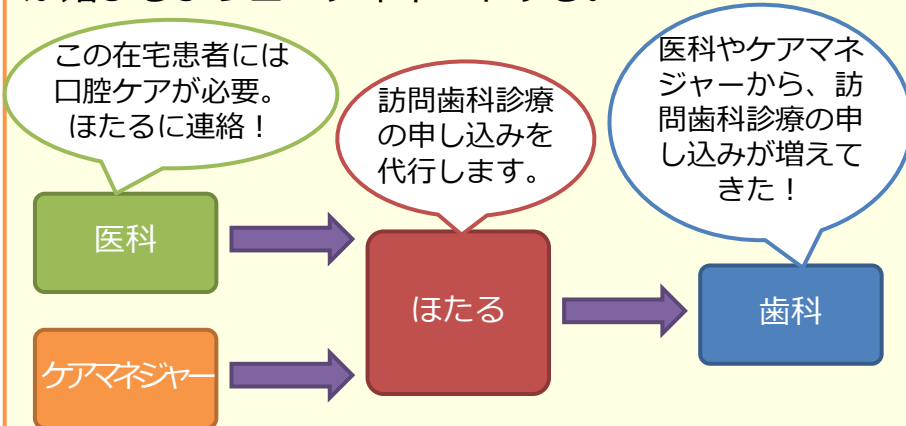


口腔ケア提供体制の構築

【課題】 医科やケアマネジャーから歯科に繋がらない。繋ぐ窓口がない。

訪問歯科診療相談窓口の設置

ほたるが窓口となり、医科、ケアマネジャーから歯科への繋ぎ役となり、スムーズな口腔ケアの利用が始まるようコーディネートする。



【訪問歯科診療申込件数】

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	3	0	0	1	1	1	1	1	2	6	17件

回復期リハビリテーション病院への歯科介入

回復期リハビリテーション病院の入院患者への歯科の介入を、歯科医師会と協力してほたるが企画。

- ◆ 歯科医師会が作成したチェックシートにてアセスメントを実施。歯科治療実施に繋げる。
- ◆ 拠点と同じく医師会が運営する回復期病院なのでスムーズな介入が可能となった。
- ◆ 対象とする入院患者は脳卒中地域連携パス患者に限定して実施した。
- ◆ スクリーニングは看護師が実施した。

【介入状況】

	10月	11月	12月	合計
脳卒中地域連携パス入院患者数	12	7	12	31人
歯科治療実施者数	1	3	2	6人



1年間取り組んできましたが、申込件数は伸び悩んでいます。

口腔ケアに対する理解が進んでいないことが活用が進まない理由。来年は周知を強化しなくちゃ。



口腔ケアに対する認知度はまだまだ低いことが問題点。
来年度は「**医科**」や「**市民**」に向けた**普及啓発活動を更に強化する！**



地域包括支援センター・行政との連携

地域包括支援センターとの連携

同じ医師会が運営する地域包括支援センターつくりとの連携を、昨年度より一歩推し進め、具体的な共同での業務・事業を実施した。

- ◆ 地域ケア推進担当者会議への参加（毎月第1水曜日）
- ◆ 地域ケアネットワーク会議（6回）
- ◆ 介護者のつどい（3回）
- ◆ 町内会ごとの集会等（6回）
- ◆ 山形県地域ケア会議等広域支援員等運営会議



包括と一緒に
寸劇

地域で開催される会へ積極的に参加し、ほたるの周知、地域課題に対する医療的助言、参加者からの相談に対応。



協業体制を地道に継続していくことが、信頼関係を醸成し、地域包括支援センターと拠点のより良い関係作りに繋がる。



地域包括ケアシステムの構築における医療側からの推進を、医師会が運営するほたるが担う。

行政との連携

昨年度より継続している行政との連携を継続するだけでなく、具体的な取り組みを実施。

- ◆ 定期的なミーティング（毎月第1月曜日）
- ◆ 医療と介護の連携推進担当者会議（研修会企画会議）



昨年度、行政と連携して作成した「連携シート」（医師への介護に関するアンケート調査）のケアマネジャーの活用状況を行政が調査。結果を受けて今後の展開を検討していく。

利用状況	人数
いつも利用している	9名
ときどき利用している	55名
全く利用していない	68名

理由

【利用されていない理由】

- ◆ 近隣医師との連携はとれているので必要性が低い。
- ◆ 冊子があることを知らない。



鶴岡市主催の「福祉体育祭」で、地域包括支援センターの利用方法を寸劇で演じたり、展示にて訪問診療や介護サービス、ほたるの周知活動を行った。（参加者780名）



地域包括支援センター・行政との定期的なミーティングや、事業での協力を通して**信頼関係を醸成**し、地域包括ケアシステムの構築を推進する。

出張勉強会

きっかけ…
ケアマネからほたるへの電話相談。



(参加者) 7名
居宅介護支援事業所・地域包括支援センター職員
(講師) 2名
ほたる

開催前に…聞きたいこと・学びたいことを事前に知るべく、事業所にアンケート調査を実施。

アンケート内容をもとに、福祉は行政担当部署、在宅医療は訪問看護師から情報を収集して開催準備。

ほたるのスタッフ（看護師・相談員）が事業所へ出向き、勉強会を開催。



【参加者の感想】

- ◆基礎資格が介護職のケアマネジャーは医療に弱いため「**医療サービスに繋がられない**」という大きな不安を抱えて、ケアマネジメントを行っている。
- ◆ケアマネジャーを対象にした研修会は多数行われているが、「**大きい規模ではなかなか聞けないこと**」を聞ける場としての小規模な勉強会を開催欲しいという希望をかなえてくれるところがあることはとても心強い。



- ◆ケアマネジャーの医療に関する知識の底上げのためのひとつの手段として、出張勉強会にはニーズがあることがわかった。
- ◆ほたるによる出張勉強会の開催について、地域全体に周知していく。

出張勉強会の開催が、**ケアマネジャーの医療に対する苦手意識や不安感の軽減**に繋がることを実感。継続事業として力を入れていく！



タスク4

在宅医療に関する地域住民への普及啓発

地域住民向け周知・啓発活動



地域住民向け周知・啓発活動

本年度から医療・介護従事者だけでなく、地域住民にも周知・啓発活動を強化！

住民向けリーフレットの作成



◆リーフレットを地域住民向けに作成。

4000部発行しました！



「市民健康のつどい」に参加

- ◆多くの地域住民が参加する鶴岡市主催の大規模イベント。
- ◆昨年度に引き続き参加して、ブースを出展。
- ◆204人のブース訪問とアンケートへの記載を頂いた。



ニュースレター「ほたる便り」の定期発行



地域で行われる各種イベントに参加しPR

- ◆庄内プロジェクト市民公開講座
- ◆庄内地域医療連携の会市民公開講座
- ◆鶴岡市主催福祉体育祭

在宅医療や「ほたる」の普及啓発だけではなく、地域住民からの声を直接聞ける良い機会でした！



地域住民に新しい医療サービスを提供する「ほたる」を知ってもらうことが当面の課題。メディアの積極的活用等も含め、周知・啓発活動を拡大する！

ご清聴ありがとうございました！
これからも「ほたる」では、在宅医療推進のための
多職種の連携を支援していきます。

